

科目名	運動生理学演習						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	園田 剛之		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	身体運動の生理学側面、特に運動器および呼吸循環機能に重点を置きながら学習することにより、理学療法に必要な運動生理学の基礎的知識を理解する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				身体運動の仕組みについて説明できる	
	○	○				運動とエネルギーについて説明できる	
		○	○			目標の運動負荷量を設定できる	
		○	○			検査測定結果を理解することが出来る	
			○			安全に配慮して実習を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:「やさしい運動生理学」南江堂、杉晴夫編						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	運動生理学総論;骨格筋の構造、筋収縮のメカニズム、収縮様式と筋力			教科書の予習しておく。		
	2	筋収縮のエネルギー源とエネルギー供給様式			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	筋線維のタイプとその特徴、運動ニューロン、運動単位、神経支配比・他			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	神経系による運動の調節;末梢神経と身体運動			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	神経系による運動の調節;中枢神経系と身体運動			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	身体運動と循環;心臓の構造と機能(心拍数・最大心拍・一回心拍出量・血圧・他)			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	身体運動と循環;運動強度と心拍数・心拍出量および血圧の関係			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	身体運動と循環;肺機能(肺活量・換気量・ガス交換・呼吸商・他)			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	身体運動と循環;酸素摂取量、最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値・他			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	運動負荷と心肺機能;運動強度と心拍数・動脈圧酸素較差・酸素、分時換気量の関係			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	運動強度の表し方・まとめ			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	運動生理学実習(1) 筋力測定・ECG・体力測定・運動負荷心電図など			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	運動生理学実習(2) 筋力測定・ECG・体力測定・運動負荷心電図など			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	運動生理学実習(3) 筋力測定・ECG・体力測定・運動負荷心電図など			授業資料のまとめを復習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	実習レポート		◎		○		10%
	発表・作品				○		10%
履修上の注意							

科目名	整形外科学Ⅱ								
科目名(英)									
単位数	2	時間数	30時間	担当者	九州大学整形外科教室				
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	理学療法学科 2年								
授業概要	整形外科領域の疾患・治療法を理解する。各身体部位の基本構造を知り、外傷を理解する。各整形外科領域疾患の特徴的な症状・病態を把握し、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。理学療法が関わる障害が、どのような疾患から起因するかを知る。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				整形外科領域疾患の特徴的な症状、病態を説明できる。			
	○	○				身体各部の基本構造を知り、外傷について説明できる。			
	○	○				整形外科領域疾患の治療法を説明することができる。			
	○	○				理学療法の治療上での各疾患ごとのリスク管理を説明することができる。			
○	○				整形外科疾患から起因する、理学療法が関わる障害について説明できる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準整形外科学(医学書院) 標準理学療法学 作業療法学 専門基礎分野 標準整形外科学(医学書院)								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	11章-1 骨折1 概論-骨折とは-				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	2	11章-2 骨折2 体幹の骨折				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	3	11章-3 骨折3 上肢の骨折				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	4	11章-4 骨折4 下肢の骨折				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	5	12章 脊髄損傷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	6	13章 関節における外傷性疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	7	14章 末梢神経における外傷性疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	8	15章 腱・靭帯における外傷性疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	9	16章-1 スポーツ外傷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	10	16章-2 スポーツ障害				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	11	17章 熱傷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	12	18章 切断および離断				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。			
	13	まとめ				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。			
	14	まとめ				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。			
15	まとめ				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。				
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	○	◎				100%		
履修上の注意									

科目名	内科学Ⅱ						
科目名(英)	Internal Medicine						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。</li> <li>・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。</li> <li>・内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。</li> <li>・内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		理学療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学			生理学教科書も併せて予習しておく。		
	2	血液・造血器疾患2 白血病・リンパ腫・止血・出血傾向			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	代謝性疾患1 糖蛋白代謝・脂質・ビタミン・ミネラル			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	4	代謝性疾患2 糖尿病・メタボ痛風			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	5	内分泌疾患1 下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	内分泌疾患2 内分泌疾患各論			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	腎・泌尿器疾患1 解剖・生理・症候・検査			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	8	腎・泌尿器疾患2 糸球体・腎不全・ネフローゼ症候群			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	9	腎・泌尿器疾患3 尿路感染症・電解質異常			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。		
	10	アレルギー等1 免疫・アレルギー・リウマチ関節炎			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	アレルギー等2 膠原病・免疫不全			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	感染症疾患1 診断・予防			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	感染症疾患2 細菌感染症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	感染症疾患3 真菌症・ウイルス感染症・原虫・寄生虫			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	神経内科学Ⅱ						
科目名(英)	Neurology						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。</li> <li>・神経内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。</li> <li>・神経内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
○	○		○		理学療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 神経内科学 (補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア、水頭症			教科書で予習しておく。		
	2	脳血管障害Ⅰ、(疫学、分類、合併症、症状、治療)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	脳血管障害Ⅱ、診断(臨床症状による)、リハビリ訓練			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	認知症、記憶障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	脳腫瘍と外傷性脳損傷			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	神経内科と脊髄疾患(神経内科領域、脊髄損傷)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	変性疾患、脊髄小脳変性症関連(小脳症状解説)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	変性疾患、運動神経変性(筋萎縮性側索硬化症など)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	脱髄性疾患、多発性硬化症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	パーキンソン病と失調症、不随意運動			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	単神経麻痺、末梢性ニューロパチー、ギランバレー症候群			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	筋疾患、筋炎、筋ジストロフィー症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	重症筋無力症、周期性四肢麻痺、代謝性疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	神経内科における感染症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	小児科学						
科目名(英)	Pediatric science						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				新生児・未熟児の疾患について説明できる	
	○	○				先天異常と遺伝病について説明できる	
	○	○				小児期の神経系疾患について説明できる	
	○	○				小児期の筋・骨格系疾患について説明できる	
	○	○				小児期の循環器・呼吸器・消化器疾患について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学第5版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 小児科学概論1 発達・成長・栄養・摂食			教科書で範囲の予習をしておく。		
	2	第1章 小児科学概論2 保健 第2章 診断			教科書で範囲の予習をしておく。		
	3	第3章 新生児・未熟児疾患1 Apgar・IUGR・未熟児			教科書で範囲の予習をしておく。		
	4	第3章 新生児・未熟児疾患2 周産期異常・脳室周囲・内出血			教科書で範囲の予習をしておく。		
	5	第4章 先天異常と遺伝病1 メンデルの法則・エピゲノム			教科書で範囲の予習をしておく。		
	6	第4章 先天異常と遺伝病2 染色体異常・奇形・先天代謝異常			教科書で範囲の予習をしておく。		
	7	第5章 神経・筋・骨系疾患1 感染症・脳症・ADEM・CNS奇形			教科書で範囲の予習をしておく。		
	8	第5章 神経・筋・骨系疾患2 先天性CNS疾患・てんかん・脳性麻痺			教科書で範囲の予習をしておく。		
	9	第5章 神経・筋・骨系疾患3 精神発達遅延・筋ジストロフィー			教科書で範囲の予習をしておく。		
	10	第6章 循環器疾患 第7章 呼吸器疾患			教科書で範囲の予習をしておく。		
	11	第8章 感染症 14章 腫瘍性疾患 第15章 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待			教科書で範囲の予習をしておく。		
	12	第9章 消化器疾患 第10章 内分泌・代謝疾患			教科書で範囲の予習をしておく。		
	13	第11章 血液 第12章 免疫・アレルギー疾患、膠原病			教科書で範囲の予習をしておく。		
	14	第13章 腎・泌尿器系・生殖器疾患 第16章 重症心身障害児 第17章 眼科・耳鼻科的疾患			教科書で範囲の予習をしておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	老年医学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	伊佐 勝典		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	我が国の平均寿命は世界一位となり、高齢障害者が増加している。老年学に関する基本的な医学知識(病態、診断、治療、リハビリ)の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○					
	目標						
	加齢に伴う変化(生理機能・運動機能・心理面)について説明できる。						
	○	○					
高齢者に多く発症する疾患の概要を理解し列挙することができる。							
	○	○					
高齢者に対するリハビリテーションにおける留意点、医療、介護、福祉サービスを説明できる。							
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 老年学(医学書院)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	老化と老年病、加齢に伴う変化(生理機能)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	2	加齢に伴う変化(運動機能・精神心理面)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	高齢者の定義・人口動態、高齢者との接し方			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	高齢者の機能評価、高齢者の退院支援			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	高齢者に多い症候と老年症候群、循環器疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	呼吸器疾患、消化器疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	骨・運動器疾患、神経疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	精神疾患・内分泌代謝疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	血液・免疫疾患、腎・泌尿器疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	皮膚・口腔疾患、感染症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	耳鼻咽喉科疾患、眼疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	東洋医学・老年学からのアプローチ			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	社会学・経済学からみた高齢社会、高齢者の医療、介護など			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	高齢者のリハビリテーション			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	動作分析学						
科目名(英)	Motion analysis						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松崎 哲治		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常な運動・姿勢・動作を機器を用いて理解する。</li> <li>2. 運動学・臨床運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深める。</li> <li>3. 何らかの疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々な機器を用いて分析する。</li> <li>4. 分析結果より問題点を理解する。</li> <li>5. 分析することの楽しさを学ぶ。</li> </ol>						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			運動学・臨床運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深めることができる	
	○	○	○			何らかの疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々な機器を用いて分析できる	
	○	○	○			正常な運動・姿勢・動作を機器を用いて理解できる	
	○	○				分析結果より問題点を理解することができる	
	○	○				分析することの楽しさを学ぶ	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1) Gots-Neumann著: 観察による歩行分析. 医学書院, 2007. 2) 石井慎一郎: 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践. メジカルビュー社, 2013. 参考文献: 1) 中村隆一: 基礎運動学第6版. 医歯薬出版株式会社, 2003. 2) 嶋田智明・平田総一郎著: 筋骨格系のキネシオロジー. 医歯薬出版株式会社, 2000.						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 動作分析とは?①			教科書の予習をしておく。		
	2	動作分析とは?②			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	力学について			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	動作解析①(床反力計)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	動作解析②(三次元動作解析計)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	筋について			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	筋電図①(筋電図とは)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	筋電図②(筋電計測の仕方)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	研究①(実験立案)			教科書の予習をしておく。		
	10	研究②(実験計測)			教科書の予習をしておく。		
	11	研究③(実験データ解析)			教科書の予習をしておく。		
	12	研究発表会① *1(1・2・3班発表)			教科書などで知識の予習をしておく。		
	13	研究発表会② *1(4・5・6班発表)			教科書などで知識の予習をしておく。		
	14	研究発表会まとめ			研究発表のまとめを行うので、各班の発表の振り返りをしておくこと		
15	総まとめ			これまでの授業内容を復習しておくこと			
評価方法	(1)実習レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				90%
	実習レポート	◎	◎	○	○		10%
履修上の注意	*1 発表は1班20分程度を予定しています。各班ごとに行います。質疑応答は無制限。						

科目名	運動療法学						
科目名(英)	therapeutic exercise						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	河元 岩男		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	1. 運動療法の概念・治療構造・根拠を知る。2. 関節の解剖生理学について理解する。3. 関節可動域制限とその治療法について理解する。4. 筋機能障害とその治療法について理解する。5. 上記知識を臨床応用できる						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○	○			理学療法における運動療法の位置づけ、歴史的背景を説明できる。		
	○	○			運動療法の定義、目的、種類を説明できる。		
	○	○	○	○	関節可動域制限に対する評価と治療の理論を説明し実践できる。		
	○	○	○	○	筋力、筋持久力低下に対する評価と治療の理論を説明し実践できる。		
○	○	○	○	事例を臨床推論し運動療法が実践できる。			
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1)千住秀明:運動療法Ⅰ.九州神陵文庫 2)富雅男、砂川勇:整形徒手理学療法.医歯薬出版 参考文献:月城慶一:観察による歩行分析.医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	運動療法概論			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	2	関節可動域制限(拘縮と筋力低下)について、ROM-T、MMT、ADL評価の関係 / 臨床推論(関節可動域制限)			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 ICFの構造について復習しておくこと。		
	3	運動と関節栄養			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 関節の種類と構造について復習しておくこと。		
	4	軟部組織モビライゼーション			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 筋の構造と機能について復習しておくこと。		
	5	関節運動学① 上肢・体幹、関節可動域制限とその治療			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 配布資料を事前に読んでおくこと。		
	6	関節運動学② 下肢 関節可動域制限とその治療			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 配布資料を事前に読んでおくこと。		
	7	関節運動学③ まとめ 関節可動域制限とその治療			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 配布資料を事前に読んでおくこと。		
	8	関節可動域制限総復習 関節可動域運動の実際(他動的関節可動域運動)			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 配布資料を事前に読んでおくこと。		
	9	関節可動域運動の実際(関節モビライゼーション:上肢) 関節可動域運動の実際(関節モビライゼーション:下肢)			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 配布資料を事前に読んでおくこと。		
	10	関節可動域運動の実際(伸張運動)			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 配布資料を事前に読んでおくこと。		
	11	筋力に関する基礎知識			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 配布資料を事前に読んでおくこと。		
	12	筋力低下と異常歩行① 大殿筋・中殿筋・大腿四頭筋 筋力低下と異常歩行② 前脛骨筋・下腿三頭筋			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 配布資料を事前に読んでおくこと。		
	13	筋力低下と異常歩行③ 異常歩行と筋力増強運動 筋力増強運動の実際			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 配布資料を事前に読んでおくこと。		
	14	総まとめ(関節可動域運動) 総まとめ(筋力増強運動)			小テスト、デイリーノートを復習し確認しておくこと。 授業内容を振り返り、疑問を整理しておくこと。		
15	模擬実技試験 定期試験対策			動画撮影した実技内容を学生間で練習し実技試験に臨むこと。			
評価方法	(1)各授業内容の振り返りとしてデイリーノートを提出する。(2)各単元のまとめとして小テストを実施する。 (3)定期試験(実技、筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○	◎	○		40%
	定期試験(実技)	◎	◎				20%
	小テスト	◎	◎				30%
デイリーノート	◎	◎		○		10%	
履修上の注意	定期試験には実技試験も含まれます。						

科目名	物理療法学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	熊丸 真理・仲吉 功治		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	1.物理療法の種類、定義、目的の説明ができる。2.各物理療法の治療効果、適応、禁忌の説明ができ、適切に実施できる。3.各物理療法機器の取り扱い、リスク管理ができる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				理学療法における物理療法の位置づけ、歴史的発展過程を説明できる。	
	○	○				物理療法の適応の多い病態を理解し、発生メカニズムを説明できる。	
	○	○				各物理療法の種類、定義、目的、生理学的作用が説明できる。	
	○	○		○		各物理療法の治療効果、適応、禁忌の説明ができ、適切に実施できるようになる。	
○	○		○		疾患に合わせた物理療法機器の選択ができ、その思考過程を説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:千住秀明監修 沖田実編集 :理学療法テキストⅩ 物理療法 第2版. 神陵文庫,2009 参考文献:1)石川 朗: 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習 2)Michelle H. Cameron編著:EBM物理療法原著第4版. 医歯薬出版株式会社,2015						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	物理療法導入ーオリエンテーション、物理療法体験ー物理療法ってなんだろう?患者様の気持ちになって考えてみよう				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	物理療法総論ー物理療法に必要な生理学、主な病態の理解①ー炎症・疼痛を中心に				小テストの復習 該当の生理学の内容を復習しておくこと	
	3	主な病態の理解②ー炎症・疼痛を中心に				小テストの復習 該当の生理学の内容を復習しておくこと	
	4	温熱療法①講義(ホットパック、パラフィン) 温熱療法①実技(ホットパック、パラフィン)				小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	温熱療法②講義(超音波、超短波、極超短波) 温熱療法②実技(超音波、超短波、極超短波)				小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	寒冷療法講義 寒冷療法実技(コールドパック・アイスマッサージ)				小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	牽引療法講義 牽引療法実技(頸椎・腰椎間欠牽引)				小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	牽引療法実技(頸椎・腰椎間欠牽引) 水治療法講義				小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	水治療法実技(渦流浴、気泡浴、全身浴、アクアサイザー)				授業資料を復習し、実技に望むこと	
	10	電気療法講義(TES、TENS、FES、電気診断法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	電気療法実技(TES、TENS、FES、電気診断法)				小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	光線療法講義(赤外線、紫外線、レーザー) 光線療法実技(赤外線、紫外線、レーザー)				小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	疾患別物理療法				これまでの授業内容を復習しておくこと	
	14	OSCE				これまでの授業内容を復習しておくこと	
15	まとめ				これまでの授業内容を復習しておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				90%
	小テスト	◎	◎		○		10%
履修上の注意							

科目名	日常生活活動学 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	松木 直人		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	・基本動作重要性と、理学療法士との関係性について説明できる・正常動作の原理に基づき、基本動作の分析ができる・障害別の基本動作の特徴を説明できる・代表疾患の基本動作の指導ができる						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				基本動作について説明できる。	
	○	○				坐位姿勢・立位姿勢の構成要素を説明できる。	
	○	○				基本動作の構成要素を説明できる。	
	○	○		○		症例における基本動作の分析ができる。	
	○	○		○		症例における基本動作の誘導および指導ができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)石井慎一郎:動作分析 臨床活用講座 パイオメカニクスに基づく臨床推論の実践. メジカルビュー社, 2013. 参考文献:1)中村隆一 他:基礎運動学(第6版). 医歯薬出版株式会社,2005 2)中村隆一 他:臨床運動学(第3版). 医歯薬出版株式会社,2002 3)動画でみる臨床動作分析のポイント. 理学療法24(8),2007						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 基本動作とは?			教科書の予習しておく。		
	2	動作分析演習① : 坐位姿勢の構成要素			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	動作分析演習② : 立位姿勢の構成要素			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	動作分析演習③ : 基本動作の構成要素			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	動作分析演習④ : 基本動作の構成要素			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	寝返り動作① : 動作観察・力学的検討			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	寝返り動作② : 症例の動作分析			授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	起き上がり動作① : 動作観察・力学的検討			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	起き上がり動作② : 症例の動作分析			授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	起き上がり動作③ : 誘導・指導			授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	立ち上がり動作① : 動作観察・力学的検討			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	立ち上がり動作② : 症例の動作分析			授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	立ち上がり動作③ : 誘導・指導			授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	日常生活活動への応用 : 症例の動作指導			授業資料のまとめを復習しておく。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意	動作分析の際、動きやすい服装のこと。						

科目名	義肢装具学						
科目名(英)	Prosthetics and orthotics science						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	宇戸 友樹		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	1.リハビリテーションにおける義肢装具の重要性と役割について理解する 2.義肢装具の種類・目的・構造について理解する 3.装具の疾患に対する適応・活用方法を理解する 4.装具作製の経験により作製の過程と構造の理解を深める						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○	○	○	リハビリテーションにおける義肢・装具の目的と役割について説明できる。		
	○	○	○	○	装具の種類とその目的について力学的要素を踏まえて説明できる。		
	○	○	○	○	疾患別に必要な装具を目的とその方法について説明できる。		
	○	○	○	○	義肢の種類と目的について力学的要素を踏まえて説明できる。		
○	○	○	○	作製演習を通して、作製過程を学び義肢装具士との協力について説明できる。			
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)義肢装具学テキスト改訂第3版:細田多穂監修. 南江堂 2)義肢装具のチェックポイント第8版:日整外学会・日本リハ医学会. 医学書院 参考文献:講義内で随時案内します。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	義肢学・装具学総論(義肢とは…、装具とは…、装具と理学療法士との関わり) 整形靴(靴の構造・役割)			教科書の予習をしておく。		
	2	下肢装具(総論:装具体験) 下肢装具(総論:構造と種類)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	下肢装具(長下肢装具:構造とバイオメカニクス)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	下肢装具(実習:下肢装具チェックアウト)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	下肢装具(実習:疾患別適応)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	整形靴(靴の補正・種類と適応)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	装具製作実習			授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	装具製作実習			授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	体幹装具(総論) 体幹装具(頸装具の種類と疾患別適応)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	体幹装具(胸腰椎装具の種類と疾患別適応) 体幹装具(側彎症装具の構造とバイオメカニクス)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	上肢装具(総論) 上肢装具(種類と適応・末梢神経損傷)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	上肢装具(種類と適応・末梢神経損傷) 上肢装具(まとめ)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	義肢学:外部講師			授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	義足と異常歩行			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	中間テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	内部障害 I						
科目名(英)	Internal Disability Studies respiratory organs						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	花田 穂積・今山 隆士		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	1.呼吸の解剖と換気・ガス交換について説明ができる。 2.代表的な呼吸器疾患の発生機序と病態が説明できる。 3.呼吸機能の評価、治療の実際を理解する。 4.糖尿病の合併症について理解する。 5.リスク管理ができる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		内部障害領域において理学療法の変遷を説明できる。	
	○	○				内部障害領域において呼吸器疾患、糖尿病疾患の現状を説明することができる。	
	○	○				内部障害により起こりうる身体機能、日常生活の問題について説明できる。	
	○	○				呼吸器理学療法の実施過程を説明することができる。	
○	○		○		チーム医療において理学療法士に求められる役割を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「内部障害理学療法呼吸」石川朗+玉木彰 編 参考文献: 1)芳賀敏彦:リハビリテーション医学講座17巻.循環器・呼吸器疾患.医歯薬出版株式会社 2)奈良勲,鎌倉矩子監修:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学.医学書院 3)黒澤一,佐野裕子:呼吸リハビリ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	呼吸理学療法総論				生理学・内科学を予習しておくこと。	
	2	呼吸運動のメカニズム、呼吸に関する筋、肺の解剖と生理				小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)生理学の復習をすること。	
	3	呼吸機能の評価(肺機能検査実技)呼吸不全の種類、COPD				小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)生理学の復習をすること。	
	4	SpO2とPaO2、酸素解離曲線 換気とガス交換、酸塩基平衡について				小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)生理学の復習をすること。	
	5	異常呼吸音、画像所見の見方 フィジカルアセスメント(聴診)について				授業資料を確実に復習しておくこと。教科書で様々なX線、CT画像の確認をしておく。	
	6	呼吸不全とは、代表的な呼吸器疾患の病態について 急性呼吸不全と慢性呼吸不全				小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)教科書で様々な疾患の特徴を確認をしておく。	
	7	呼吸理学療法評価実践(6MWT、SWT、FRT、TUG、スパイロ、胸郭周径など)				授業資料を確実に復習しておくこと。評価学、生理学のテキストを参考にすること。	
	8	運動処方について(THRなど) METs、厚労省エクサイズ表				小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)運動生理学を復習しておくこと。	
	9	酸素療法(在宅酸素について) AaDO2の求め方、CO2ナルコーシスについて				小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)	
	10	小テスト				国家試験形式(授業資料の復習)記述式(小テストの復習)	
	11	呼吸理学療法評価のまとめ、呼吸理学療法治療実践①(体位ドレナージ)呼吸理学療法治療実践②(介助呼吸法)				授業資料を確実に復習しておくこと。	
	12	急性期呼吸②(人工呼吸器について)呼吸理学療法治療実践③(排痰法)				小テスト対策(授業資料を確実に復習しておくこと)	
	13	糖尿病 代謝				授業資料を確実に復習しておくこと。内科学の復習も兼ねておくこと。	
	14	糖尿病 代謝				授業資料を確実に復習しておくこと。内科学の復習も兼ねておくこと。	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを10回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意							

科目名	生活環境学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	木村 孝		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 2年						
授業概要	超高齢化社会の中で、地域で安全に安心して暮らしていくために、住環境は一つの重要な要因となっている。基本的な疾患別の特徴を踏まえた生活環境に対する整備の視点を基本的な用語・考え方、提案方法について紹介する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	目標		
	○				高齢者・障がい者を取り巻く環境について説明ができる。		
	○				住環境を整備するための基本的知識を利用して基本的な環境整備ができる。		
	○ ○				理学療法士の観点から環境整備が実践でき、その提案を可視化できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:福祉住環境コーディネーター検定試験®2級公式テキスト<改訂4版> 東京商工会議所						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	高齢者・障がい者を取り巻く環境の現状とその問題点について			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	2	生活環境整備のための基本的技術について			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	3	生活行為別住環境整備の考え方について			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	4	住環境整備の実践のための基礎的共通項目について			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	5	生活行為別にみた福祉用具の活用について			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	6	作図の実際1			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	7	作図の実際2			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	8	事例検討					
	9	作図の実際3			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	10	作図の実際4			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	11	住環境整備の実践1			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	12	住環境整備の実践2			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	13	住環境整備の実践3			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	14	住環境整備の実践4			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				70%
	発表・作品	○	◎		○		30%
履修上の注意	1.住環境コーディネータ2級の試験が実施されています。受験を勧めます。						